



佐々木クリニック

白柳慶之院長

西武新宿線花小金井駅からバスで約15分のところにある「佐々木クリニック」。一軒家風の外観と玄関先に植えられたオリーブの木が目印だ。1978年に耳鼻咽喉科として開院し、2014年10月に、泌尿器科・小児泌尿器科の専門クリニックとして、耳鼻咽喉科に加えて、新たに開院。白柳慶之院長は、泌尿器科専門医として子どもから大人まで幅広い年齢層の診療を担当。夜尿症の専門医としても良く知られ、遠方からも患者親子が訪れる。「子どもの心に寄り添いつつも、エビデンスに基づいた科学的治療を」と、薬物療法、アラーム療法など一人ひとりの患者に即した治療を行っていく。「泌尿器科のイメージを変え、気軽に足を運んでいただきたい」と語る白柳院長に、診療ポリシー、今後の展望などについて聞いた。

(取材日2016年6月7日)

泌尿器疾患の子どもが大人になっても通える医院を

「開業に至るまでの経緯を教えてください。」

信州大学医学部を卒業後、東京女子医科大学泌尿器科に勤務し主に成人の方の泌尿器疾患の診療に携わったあと、再生医療の基礎研究を行っていました。その後8年間、小児医療専門神奈川県立子ども医療センター「院長として勤務し、小児泌尿器科手術、神経陰性膀胱、排尿障害、夜尿症など数多くの小児泌尿器疾患の診療を行っていました。子どもの泌尿器疾患は、大人の泌尿器疾患とは病気の種類が異なり、治療が困難だったり時間がかかるケースも多いものです。そのような子どもたちが、自分の疾患と向き合いながら大人になった時にも受け入れてもらえるような場所の必要性を感じ、小児も大人も両方診てきた自分がこのようなクリニックを立ち上げようと、開業を思い立ちました。」

「どのような患者さんがいらしゃいますか？」

お子さんから高齢の方まで、幅広い年齢の患者さんがいらしゃいます。高齢の方は地元周辺にお住まいの方が多く、小児泌尿器科には、東京はもちろん、千葉県や埼玉県など広い範囲からいらしゃっていますね。小児泌尿器科の半分以上が夜尿症の相談でいらしゃいます。子どもの泌尿器疾患を診てくれる専門病院って結構少ないんですよ。今までいろいろな医院をまわられて、当ク

リニックにいきましたと言っ親御さんもいらしゃいます。高齢の方は、男性が6割くらい、女性は4割くらいです。男性の場合は前立腺疾患や前立腺がん、女性は尿失禁や過活動膀胱といった疾患が多いですね。」

「診療ポリシーについて教えてください。」

お子さんの診療については、お子さんに寄り添うというのはもちろんのこと、その子が健やかに成長していく中で、毎日楽しく生活し、園や学校に通えるようお子さんの全体像を診ながら治療していくことを心がけています。治療に疲れたら休むことも必要ですし、そういうところを保護者の方と相談しながら治療を進めていきます。特に夜尿症は、科学的な根拠がないと医療として成り立ちません。死に至るような病気ではありませんが、悩みは深いものです。患者さんを良い方向に導いていくために、先天性の疾患の有無の診断を含め、エビデンスに基づいた科学的な治療、国際的に標準的な治療を取り入れて診療しています。」

夜尿症診療では、子どもと保護者の話をじっくり聞く

「夜尿症の診療はどのようにされていますか？」

当クリニックでは、一般的な生活習慣の改善、寝る前にお子さんのおむつやパンツに小さなセンサーをセットし夜中におねしょおむつやパンツがぬれるとアラームがなるアラーム治療、薬物治療などを行っています。夜尿

佐々木クリニック

〒187-0002 東京都小平市花小金井8-11-9

TEL:042-344-3390

花小金井駅 / 泌尿器科

DATA



ドクターズファイル

で

検索



症診療では、お子さん、お母さんの話をじっくり聞き、受け止めることが大切です。「きちんと薬を飲んでいないのに治らない」などという場合は、「クラス替えがあつて緊張が続いている」など、その背景を見逃さないよう、それぞれの家庭と密にコミュニケーションをとりながら向き合っています。学会でも当クリニックでの診療データを発表してフィードバックをかけ、自分の診療が正しいのが常に検証しながら進めています。また、2016年の夜尿症学会では最優秀論文賞を頂きました。

―診療全般の特徴を教えてください。

診察室で超音波検査を行うことができますので、例えば「血尿が出る」という患者さんがいらついたらその場でエコーを見ながら診断し、患

者さんにも画像を見てもらいながら説明できることです。大きな病院ですと、技師さんに撮ってもらった画像を何日後に医師が説明するのでタイムラグがありますが、当クリニックではただちに診断できるため、患者さんの安心につながると思います。トイレの便器には尿流測定器を組み込み、排尿の機能を調べることにより「おしっこが出にくい」など排尿障害の原因を探っていきます。また、僕自身、週に一度公立昭和病院で診療しながら小児の泌尿器疾患の手術、月に二度、東京都立小児総合医療センターで子ども排泄専門の外来を担当しています。このような活動を通して、患者さんが必要な治療をできるだけスムーズに受けられるよう高度専門医療機関との連携も強化しています。

―泌尿器科というと、入りづらいイメージがあります。

そうですね。女性の患者さんは、尿失禁や過活動膀胱などの疾患は泌尿器科を受診するのが望ましいのですが、現在、女性の患者さんの泌尿器疾患の40%は婦人科、40%は内科を受診し20%だけが泌尿器科を受診するという現状があります。治療や処方する薬など、やはり泌尿器科で受診したほうが適切な診療ができますので、これまで泌尿器科に足を運ぶことに二の足を踏んでいた方を適切に導いてあげたいですね。当クリニックにも、お子さんの泌尿器疾患で連れてこられたお母さまから「実は私も」と相談される場合もあります。2016年4月から、東京女子医科大学で30年泌尿器疾患を診てきたべ



テランの女性のドクターが週に1度診療しています。院内設計などクリニックの雰囲気づくりも含め、女性の方に来ていただけるような空気をつくりたいと思っています。

女性も通いやすい、ハードルの低い泌尿器科をめざして

―ドクターをめざしたきっかけを教えてください。

将来自分になりたい職業について考えた時、手に職をつけられる職業がいいと思っていました。小さい頃からずっとチェロを習っていてプロのチェロ演奏家にあこがれ、音大をめざしたこともあったのですが、高校時代にプロの演奏家として世界で活躍する才能は自分にはないことに気づき、医師をめざしました。泌尿器科は、内

科的なことも外科的な手術も含めて診療できるところに魅力を感じたのと、腎移植など移植医療にも興味がありましたので、移植医療で名高い東京女子医科大学泌尿器科に入局し、今に至ります。

―お忙しい日々のなか、休日はどうしてお過ごしですか？

チェロの演奏とゴルフですね。チェロは今でも続けていますよ。父親が指揮者、母親がバイオリンの先生、姉二人はピアノとバイオリンという音楽一家なので、家族で演奏したり発表会のステージに立つたりもしています。ゴルフは時々コースを回っているのですが、忙しくてなかなか時間がとれないことが悩みです。

―今後の展望と読者へのメッセージをお願いします。

子どもの泌尿器科疾患の方が大人になっても来られるクリニックとして、また、子どもから高齢の方まで幅広い年齢の方から信頼され、男性も女性も気軽に来ていただけるようなハードルの低いクリニックとして、皆さんのお役にたきたいと思っています。ホームページをはじめさまざまな方法で情報発信していきたいと思っています。パソコン、スマートフォン、携帯電話からのオンライン受付や、待ち時間の目安、受付後の順番の確認などが可能な予約システムも導入し、通院しやすい環境づくりに配慮しています。おしっこに関しても、何か悩みがあれば、まずは泌尿器科に気軽に足を運んでいただきたいと思いますね。

ドクターズ・ファイル
スマートフォン版



「イマチカ検索」で
今から診てもらえる
近くの医院・病院をボタン1つで検索!